

# 情報モラル学習指導案（道徳）

平成20年10月28日（火）5校時

仙台市立東仙台小学校 5年1組

授業者 零石洋子

- 1 主題名 情報社会でのルール・マナーを遵守できる  
(情報モラル指導モデルカリキュラム表より)  
新指導要領2-(2) 思いやり

「うまく気持ちを伝えるには・・・」

## 2 ねらい

言いたいことや気持ちを伝え合う時、どんな方法で伝えるかによって、伝わり方が違ってくこともある、ということに気づかせ、思いやりの心を持って相手の気持ちを考えるようとする態度を育てる。

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいについて

今現在、携帯電話やパソコンを使ったメールなどに関するトラブルの危険にさらされている児童は、クラスにはほとんどいない状態であるが、半数近くの児童は便利そうなので携帯電話が欲しいと言っている。携帯電話の必要性を考えるということも含め、もし、持つようになった時のトラブルを未然に防ぐという意味からも、メールに関する友達とのトラブルを取り上げ、本主題を設定した。

### (2) 児童の実態

クラス全体の雰囲気は明るく、どちらかというやや幼い傾向にある。男子も女子も、活発で行動的なグループと、控えめで静かなグループとに分かれる。特に男子の方には、自分のことしか考えられないという児童が数名おり、4月から5月にかけては、けんかが絶えなかった。

携帯電話について調べたところ、自分専用を持っているという子は1名であった。家族と共用で使っているという子も4名で、クラスの半数の児童は、必要性を感じないので携帯電話を欲しいとは思わないと言っている。

パソコンはほとんどの家にあるのだが、宿題で調べるものがある時やゲームをする時にたまに使うということで、パソコンのメールを使っているという子はいなかった。

### (3) 資料について

- ・「子どもの顔の写真」 日本標準 みんなで考える道徳 5年より  
いろいろな顔の表情から、その人の気持ちがわかるということをとらえさせ、相手の気持ちを考える上で、大きな手掛かりとなることに気づかせることができる。
- ・「悟の失敗」 情報モラル 指導実践キックオフガイドP20の資料を編集  
学級の実態に合わせ、野球を通しての友達という設定に変更した。メールに関する気持ちの行き違いの例として取り上げ、二人の気持ちを考えさせていきたい。

### (4) 指導に当たって

携帯電話やインターネットに関する事件などの報道を日常的に見聞きして、その危険性やいじめにつながることもあるという情報は得ていても、実際にメールを経験している児童が少ないため、事前に、パソコン室でメールの送信・受信・返信の仕方を学び、メールのやりとりを体験させてから、授業に望みたい。

また、学級の実態からも「思いやりの心」について改めて考えさせ、人とかかわって生きていく上で大切なことであることを再認識させたい。

4 本時の指導過程

段階	主な学習活動（主な発問・予想される児童の反応）	指導上の留意点
<p>導入</p> <p>5</p>	<p>1 子どもたちの顔の写真を見て、子どもたちがどんな気持ちでいるのかを考える。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">この写真から、子どもたちについて分かることを発表してみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しそう</li> <li>・考え込んでいる</li> </ul> <p>2 「バケラッタ！」を使っての会話の例を教師と代表児童でやってみせる。</p> <p>T「〇〇君、職員室から重いものを持ってくるから、手伝って！」</p> <p>S「バケラッタ！」</p> <p>（いいよ、いやだよの2つの例をやってみる）</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">同じ言葉ですが、2つの会話を聞いて、何か感じたことはありませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声の感じで言いたいことが伝わる</li> <li>・表情や態度で言いたいことが伝わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちの顔の写真を、実物投影機でスクリーン（黒板）に映し出す。（2枚程度）</li> <li>・ 言葉がなくても、声が聞こえなくても、顔の表情だけで、気持ちは十分伝わるということに気づかせる。</li> <li>・ 「バケラッタ！」という言葉は使うものの、意味のある言葉ではない。ここでは、声の感じ、顔の表情、態度などで気持ちが伝わるということに気づかせる。</li> </ul>
<p>展開</p> <p>3 5</p>	<p>3 「悟の失敗」を読んで2人の気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">いつも、悟と健太はどんな感じで声をかわしているのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲がいい</li> <li>・ 心が通じ合っているからひどい言い方でも平気</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">メールを送っている時の悟の気持ち、メールを受け取った時の健太の気持ちはどうだったでしょうか？</p> <p>〈悟の気持ち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健太がミスを気にしていないか心配。</li> <li>・ 健太を励ましたい。</li> </ul> <p>〈健太の気持ち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもしろくない</li> <li>・ バカにされたと思っている</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">悟の思いが健太に伝わらなかったのはどうしてでしょうか？</p> <p style="text-align: center;">（ワークシートに書き込む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が範読する。</li> <li>・ 他の人から見ればひどい言い方でも、心が通じ合っていれば大丈夫。でも、伝える方法が変わると、気をつけなくてはならないことが出てくるということに気づかせる。</li> <li>・ 悟や健太の気持ちになって考えさせる。</li> <li>・ 発表する子がいつも固定化しているので、自信を持って発表させるためにも、自分の考えをワークシートにまとめさせる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールだと、相手の表情が分からないから気持ちがうまく伝わらなかったんだ。</li> <li>・メールだと声の感じも伝わらないからいつものようにはいかないんだ。気をつけないと・・・。</li> <li>・相手の立場になって考えないと、きちんと気持ちを伝えることができないんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4～5人のグループで、自分の意見を発表させ、話し合いをさせる。</li> <li>・ グループで話し合ったことをホワイトボードに記入させ、発表させる。</li> </ul>
終 末 5	<p>4 本時の授業のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この授業で、感じたこと（気がついたこと・考えたこと・思ったことなど）を書いてみましょう。</p> </div> <p style="text-align: center;">(ワークシートに書き込む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の気持ちを考えることの大切さを再認識させる。</li> <li>・ 言いたいことや気持ちを伝え合う時、どんな方法で伝えるかによっても伝わり方が変わってくるということを思い起こさせる。</li> </ul>

## 5 準備物

- ・ 資料 「悟の失敗」 「子どもたちの顔の写真」
- ・ ワークシート
- ・ 実物投影機
- ・ 液晶プロジェクター
- ・ ホワイトボード、ペン

## 6 評価

- (1) メールを送った悟と、メールをもらった健太の気持ち、どうして悟の思いが健太に伝わらなかったのかを、考え、話し合うことができたか。 (ワークシート, 話し合い, 発表)
- (2) 伝える手段によって、自分の思いがうまく伝わらないこともあるということや、思いやりの気持ちの大切さに気づくことができたか。 (ワークシート, 話し合い, 発表)

## 情報モラルに関する授業の指導計画

仙台市立東仙台小学校 5年

指導計画（6時間）

次	時	主な学習活動	身につけさせたい基礎・基本	評価規準
1	1	・スタディノートで「メール」の送受信・返信の仕方を学ぶ。(総合)	・「メール」の送受信の仕方 ・返信の仕方	・「メール」を送受信・返信することができる。
	2	・友達へ自由に「メール」を送ったり，返事を書いたりする。(総合)	・楽しいからといって，どんな書き方をしても，何を書いてもいいわけではないことを知る。	・楽しく，「メール」を送ったり返事を書いたりすることができる。 ・ルールを守って，「メール」を送ることができる。
2	3	・副読本にある「ネチケツト（自分を守るために）」で，インターネットにおける便利な点・危険な点・安全な活用について学ぶ。(道徳)	・インターネットにおける便利な点・危険な点・安全な活用について理解する。	・自分を守るためにどんなことに気をつけなければいいか，進んで学ぼうとしている。 ・安全な活用についての知識を理解している。
	4	・「悟の失敗」で「メール」ではうまく気持ちが伝わらないこともあるということをもとに，思いやりの心の大切さに気づく。(道徳)	・どんな方法で伝えるかによって，伝わり方が違ってくるといことや「思いやり」の心の大切さに気づく。	・伝える方法によって伝わり方が違ってくるといことに気づく。 ・思いやりの心の大切さに気づく。 ・自分の考えを持ち，話し合ったり発表したりすることができる。
	5	・「悟の失敗」で，「メール」を書き直すとしたら，どんなメールにしたらよいか考え，メールを書いて，他の人が書いたメールを読み合う。(国語)	・前時の考えをもとにして，健太に自分の気持ちが伝わるようにするには，どんなメールにしたらよいかを知る。	・思いやりの心を持ってメールを書くことができる。 ・他の人のメールを読み，気持ちが伝わるかどうかを読みとることができる。
3	6	・パソコンや携帯電話などに関するトラブルに巻きこまれないための学習をする。(講師の先生をお呼びして) (学級活動)	・パソコンや携帯電話などに関するトラブルに巻きこまれないための知識を理解する。(個人情報について)	・関心を持って話を聞くことができる。 ・トラブルに巻きこまれないための知識を理解する。